

# 令和5年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

### (1) 教育目標

- ・他人を思いやる心と豊かな人間性を育み、責任を重んじる自主・自律的な人格を育成する。
- ・自己の使命を自覚し、倫理を尊び、規律を守る社会性豊かな人間を育成する。
- ・高い志をもって真理を探究し、技術を磨き、社会の進歩発展に寄与する工業技術者を育成する。

### (2) 教育方針

- ・主体的に学び、自ら問題を発見し、課題を解決する実践力と創造性を育成する。
- ・基礎学力と情報活用能力を充実させ、専門技術・技能の練磨を図る。
- ・勤労意欲と責任感、協調性を育成する。
- ・健康な心身と節度ある態度を育成する。

## 2 学校の特色

新川地区唯一の工業高校である。生徒は純朴で「ものづくり」に興味・関心をもつ者が多く、専門分野の知識・技能の習得や資格取得に積極的に取り組んでいる。また、課題研究、各種ロボット等の製作をはじめとする「ものづくり」を通して、創造性、課題解決能力の育成に努めている。

部活動も活発で、競技力の向上に加え、自主・自律的な人格形成を目指している。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 現状と問題点

- ・明るく純朴な生徒が多い中で、判断力、自己抑制力、規範意識、コミュニケーション能力等が低い生徒が見受けられる。
- ・基礎学力、学習意欲の低下、目的意識の希薄さから、学校生活に意義を見いだすことのできない生徒が少なからず見受けられるので、個人面接、部活動、教科指導等いろいろな場面で心の交流に努め、家庭と学校が連携して生徒の健全な育成に努める必要がある。

### (2) 課題

- ・生徒一人一人について、能力・適性の伸長を図ることを目標として、積極的に実践することのできる生き生きとした生徒の育成を図るために、次の課題を設定した。

－ 活力ある生徒の育成を目指して －

#### 4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画
1	学習活動	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や生徒の実態を踏まえ、系統的な基礎的・基本的学習内容や体験学習等を重視しながら、生徒が主体的・対話的に取り組むことができるよう授業形態や展開を工夫する。</li> <li>・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の共有を図り、自ら志を立てて行動し、協働しながらものづくりで社会を豊かにすることができる生徒の育成を目指す。</li> <li>・ICTの積極的な活用と効率的な教材作成に努め、学習内容の充実を図る。</li> <li>・進路についての明確な目的意識をもたせ、意欲的・計画的に学習に取り組ませるよう努める。</li> <li>・検定合格・資格取得に向け、生徒が意欲的に学習できるよう支援を行う。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握のための調査と結果の分析及び対策プランの作成と実行までを一連の作業とし、継続的に行う。</li> <li>・UDGs（人生を変えるための17の目標）をきっかけとした授業を行い、各教科の知識・技能だけでなく、『考え、判断する活動』や『主体的に取り組む活動』を採り入れることで、育成すべき資質・能力の伸長を図る。</li> <li>・ICTの利活用について研究・理解を深め、互見授業による教員研修や事後の研修会を積極的にを行い、ICTを活用した指導力の向上に努めるとともに、生徒が主体的・対話的に参加し、深い学びにたどりつく授業を目指す。</li> <li>・関連の深い県内工場の見学や、インターンシップにより、望ましい勤労観・職業観を育成する。</li> <li>・各種資格試験や検定試験の案内や年間計画を配布したり、ジュニアマイスターポイントの取得状況を確認させたりして、資格・検定の取得意欲を高めさせるとともに、自ら学びに向かう生徒を支援する。</li> </ul>
	<p>重点1</p> <p>重点2</p> <p>重点5</p>	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>基本的な生活習慣を確立させる。</u></li> <li>・<u>社会の一員として必要なルール・マナーの向上と規範意識の高揚に努める。</u></li> <li>・豊かな人間関係を築くことのできる生徒の育成に努める。</li> <li>・教師間の共通理解を深め、全職員による指導体制を確立する。</li> <li>・生徒一人一人が健康と安全及び環境衛生に対する理解を深め、主体的に健康管理ができる能力を身に付けさせる。</li> <li>・生徒一人一人が充実した高校生活を送ることができるよう援助する。</li> <li>・生徒が学校生活で直面する種々の問題や悩みを自ら解決し、自らの生き方を選択・行動できるよう援助する。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・遅刻の多い生徒への個別指導を充実させるとともに、家庭との連絡を密にする。</li> <li>・定期的に、頭髪・服装指導を実施し、諸規則遵守の気風育成と規範意識の高揚を図る。</li> <li>・式典、集会への参加態度を正す指導を徹底する。</li> <li>・登校指導やさわやか運動、学校生活全般を通して、積極的に声かけを行い、人間関係の基本となる挨拶や正しい言葉遣いを身に付けさせる。</li> <li>・校内巡視を実施し、問題行動の未然防止に努める。また、問題行動を起こした生徒に対しては、生徒指導部、学年、学科等を中心に組織的・継続的な指導を行う。</li> <li>・「健康を考える日」や学校保健委員会等を通して、健康・安全に対する関心や理解を深め、個々の生活リズムや食生活の見直しを図る機会とする。</li> <li>・生徒保健委員会が中心となり、環境衛生（手洗いやアルコール消毒含む）の啓発活動を行う。</li> <li>・入学時のオリエンテーションや学級活動・清掃指導等を通してゴミの分別とマナーの向上を図る。</li> <li>・生徒を支援するにあたり、担任、保護者、養護教諭や専門機関との連携を大切にし、関係者が協力しながら取り組む。</li> <li>・スクールカウンセラーによる発達障害についての講演等、校内研修会や学年会などを通じて教職員の共通理解を深め、資質の向上を図る。</li> <li>・年に2回（1週間程度の期間）の相談週間を設け、担任による個別面接指導を行う。</li> </ul>

3	進路支援  重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会の中で、生徒自らが能力を発見・伸長し、進路への意識の高揚を図る。</li> <li>・社会での使命を自覚させ、自分の能力・適性にあった進路選択ができるよう指導する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場見学、進路講話、先輩との座談会等の実施を推進する。</li> <li>・インターンシップを推進し、職業観・勤労観を育成し、同時に社会人としてのマナー等も学ぶ。</li> <li>・応募前に、希望する企業への職場見学を推奨する。</li> <li>・進学希望者に対しては、希望校への体験入学等の参加を推奨する。</li> </ul>
4	特別活動  重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事・部活動・生徒会活動・ボランティア活動などへの積極的な参加を促し、責任感・集団の一員としての社会性・道徳性・忍耐力等の育成に努める。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入率の向上、活性化に努める。</li> <li>・週休日を含む週2日以上以上の休養日を設定し、部活動が密度の高いものになるよう創意工夫する。</li> <li>・学校行事（体育大会や競技大会等）に生徒が積極的に参加するように努める。</li> <li>・募金や地域の活動への参加等ボランティア活動に積極的に参加する。</li> <li>・校舎内外の美化活動や全校生徒のマナー意識の向上に積極的に取り組む。</li> <li>・ホームルームの時間の活性化を図る。</li> <li>・図書館の活用法を生徒に指導するため、ホームルームの年間計画に図書館の利用についての時間を設ける。</li> </ul>
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の具現化及び教育方針の達成のため、構造的・機能的に校務分掌を組織し、適材適所に基づいた校務分掌により、的確、敏速な校務の遂行を図る。</li> <li>・奨学金貸与、安全振興会の周知等、生徒が安心して学校生活を送れるよう努める。</li> <li>・保護者との連携を深め、より活発なPTA活動を目指す。</li> <li>・文書の有効利用及び情報の開示への対応に向け、適切な情報管理を行うとともに、法令等に基づき個人情報の保護に努める。</li> <li>・教育目標の実現に向け、各科と連携を図りながら効果的な予算執行により、教育環境の整備を推進する。</li> <li>・本校の情報や取組みを地域や中学校に向けて積極的に発信し、本校の教育活動について理解を図るとともに、地域や中学生から選ばれる学校を目指す。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌、学年、教科、各委員会等を通して業務内容の共通理解を図り、業務分担を明確にし、適正、円滑な校務運営に努める。</li> <li>・奨学金貸与、安全振興会等について、生徒、保護者に周知徹底する。</li> <li>・保護者の研修、広報活動をより活発に行うとともに、「さわやか運動」「祭礼、年末時の巡視」など生活指導において保護者との連携に努める。</li> <li>・情報開示が適切に行われるために、管理文書の分類、記録、保存、廃棄方法などを明確にし、対応窓口を一本化するなど文書管理体制の整備を行う。</li> <li>・個人情報の収集、利用、保管について、適正な取扱いのためのルールを定め、その運用管理体制を整備する。また、情報モラル向上のための校内研修を行う。</li> <li>・年度当初の各科及び各係からの予算要望を基に教育計画に従い、計画的かつ有効に予算を執行する。</li> <li>・全教職員と連携しながら安全に留意し、適切な施設設備の維持管理に努める。</li> <li>・学校情報発信業務を分掌業務に位置づけ、一元的かつ戦略的な情報発信をする。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した互見授業・教科別校内研修会の実施と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（人生を変えるための17の目標）の取組みに興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。</li> <li>・学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。</li> </ul>		
達成目標	①生徒にUDGsを意識させて授業を行った教員の割合	②UDGsの内、伸ばしたい力が向上したと感じた項目が3つ以上ある生徒の割合	③ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合
	70%以上	70%以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の明確化と共有を図る。</li> <li>・UDGsをきっかけとした授業の実践事例を収集し、情報交換・情報共有を積極的に行う。</li> <li>・各教科の知識・技能だけでなく、『考え、判断する活動』や『主体的に取り組む活動』を採り入れることで、育成すべき資質・能力の伸長を図る。</li> <li>・タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。</li> <li>・互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけを行う。</li> </ul>		

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識が希薄なため、安易に遅刻をする生徒がいる。</li> <li>・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣の確立の必要がある。</li> <li>・体調不良での遅刻が多く、体調管理の必要がある。</li> <li>・過去の遅刻回数はR2年度174回、R3年度199回、R4年度194回であった。</li> <li>・特定の生徒が事情により複数回の遅刻をしているため、指導方法の改善が必要である。(5回以上遅刻者が6名で、総遅刻回数の34%(65回)を占めている)</li> <li>・無遅刻生徒の割合が約80%、1回までの遅刻の生徒の割合が約90%である。</li> </ul> <p>&lt;参考&gt;R4年度の無遅刻生徒の割合 (79.6%)</p>

達成目標	年間の無遅刻生徒の割合（通院等を除く）
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員による登校指導やクラス別遅刻者統計を集計して、生徒にアクションプランの実現を呼びかける。</li> <li>・遅刻しないための事前指導を充実させる。</li> <li>・遅刻した生徒には、その都度面談し、遅刻の原因を考えさせ解消するよう指導する。</li> <li>・度重なる生徒には、学年・学科と協力して個別指導を行う。</li> <li>・学年と協力し、朝学習への積極的な参加を促す。</li> <li>・食事、睡眠を正しくとり、体調管理の徹底を呼び掛ける。</li> </ul>

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	進路支援
重点課題	進路意識の高揚
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。</li> <li>・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。</li> <li>・進学者の中に、目的が明確ではない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。</li> <li>・3学年125名の内、83名が就職を希望している。</li> </ul>
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合
	92%以上（10人未満）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。</li> <li>・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。</li> <li>・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。</li> <li>・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。</li> </ul>

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	部活動加入率の継続的な向上と、部活動の活性化	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率は昨年度12月の時点で88.3%であったが、本年度は4月の時点で未確定である。継続して部活動に参加し、成績向上を図るため積極的に練習に取り組んでいる生徒は多いが、部活動を欠席しがちな生徒もいる。積極的に参加することの意義から、加入率の維持・向上を図るのはもちろんのこと、部活動の活性化のために、活動内容の改善も必要である。</li> </ul>	
現 状	部活動加入率の継続的な向上と、部活動の活性化	
達成目標	①部活動加入率	②部活動加入者で積極的に活動している生徒の割合
	90%以上 (前年度 12月 88.3%)	85%以上 (前年度 7月 88.8% 12月 80.7%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス減が2年続き、生徒数自体が減少していく中で、部活動に加入する生徒数、部活動の活気を保つこと等が課題である。</li> <li>新川地区の多くの中学校が、現3年生辺りから、部活動を外部のクラブ活動に置き換えることができるようになったり、部活動全員加入制でなくなったりしているため、部活動の所属を1年間のみ拘束するような形になってきていると考えられる。そのため前年度と比べ2年時の加入率・積極率ともに急激に下がっている。部顧問会議で顧問が活発に部活動を行えるよう、進路指導を絡めることや社会人としての礼儀等の習得、やりがいや向上心をもって部活動に取り組める指導方法等を意見交換するなど工夫をしたい。</li> </ul>	

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )

令和5年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活リズムの定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。</li> <li>特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と関連し、学校生活に悪影響を及ぼしている。</li> </ul>	
達成目標	朝食摂取率（第2回調査（11月）における摂取率）	
	95%以上を維持する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣調査を年2回実施し、各自の生活を振り返らせる。</li> <li>問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。</li> <li>担任や部顧問との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。</li> <li>外部講師を招き、集団保健指導を実施する。</li> </ul>	

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )